

「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

2. あなたが本学大学院に進学した主な理由は何ですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	現在の仕事に関して、より専門知識を身に付けるため。	4	24%
B	興味・関心のある分野の勉強がしたくなったから。	6	35%
C	資格取得のため。(税理士試験科目免除、臨床心理士試験受験資格、教員専修免許等)	5	29%
D	大学院修了という学歴がほしかいから。	0	0%
E	将来に不安を感じたから。	1	6%
F	時間に余裕が出来たから。	0	0%
G	その他	1	6%

G:理由

地文M2	特定の教員の下で学びたいため。
------	-----------------

3. あなたが本学大学院に進学するにあたり、情報をどこで得ましたか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	学部の指導教員	5	19%
B	先輩	6	23%
C	学内での説明会	4	15%
D	オープンキャンパス	0	0%
E	大学院パンフレット	7	27%
F	本学ホームページ	4	15%
G	その他	0	0%

4. あなたの研究についてお尋ねします。

①現在、あなたの行っている研究はどのようなものですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	理論的研究	1	6%
B	調査・インタビュー・実験を用いる研究	7	43%
C	二次資料・史料の収集や整理を伴う研究	2	13%
D	課題の発見に関する研究	2	13%
E	課題の解決を目指す研究	0	0%
F	実践的応用に関する研究	4	25%
G	その他	0	0%

②現時点における研究の状況はどのようになっていますか。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
研究テーマ・内容が明確である	4 (45%)	2 (22%)	3 (33%)	0 (0%)
研究の独自性(オリジナリティ)を意識しながら、研究を行っている	1 (11%)	7 (78%)	1 (11%)	0 (0%)
研究の計画が具体的に定まっている	3 (38%)	1 (12%)	2 (25%)	2 (25%)
研究を行うときには、自分自身の判断によってすすめている	1 (11%)	2 (22%)	4 (45%)	2 (22%)
他者(学内の教員、先輩)に意見をもらう機会を自分で作る	3 (33%)	5 (56%)	1 (11%)	0 (0%)
学外の研究者と交流している	0 (0%)	1 (11%)	6 (67%)	2 (22%)

「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

5.今年度、大学院で開講されている授業についてお尋ねします。

①今年度、あなたは何科目履修しましたか。

	人数	割合
0科目	0	0%
1～2科目	1	11%
3～5科目	2	22%
6～10科目	2	22%
11科目以上	4	45%

②(1)その中で今後あなたが研究をすすめるにあたって、大いに役立つと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	8	89%
B	ない	1	11%
C	科目の履修はしていない	0	0%

②(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点が役に立つと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	心理学研究法特論	自分の修論の計画に役立つと思っています。
地文M1	履修科目すべてにおいて	(歴史的、哲学的)理論体系を学べる 新しい領域とされる学術分野(しかも自身の研究分野に深くかかわる)に出会えた 知識経験豊かな現役専門職から現場に即した知識と感性を得られる
地文M1	心理統計法特論 心理研究法特論	心理学研究の種類や、分析の仕方を整理して学ぶことができた。 研究を計画する手順を学ぶことができた。
地文M1	心理学研究法特論	研究計画を立てる際に注意すべき点が見える。また、今まで知らなかったような研究方法を知ることができる。 統計的な分析手法について理解が深まる点も良い。
地文M1	グループアプローチ特論	グループ(集団)を対象とした際に、心理士がどのようなことに配慮し、気をつけて進行していくことが必要なのかを実践的に学ぶことが出来た点です。どのように振る舞うことがいいのか、悪いのか、それは何故なのかといったことを講義を通して考えることが出来るので、実際の研究でグループを対象とするときにも、(まだ実践の中で十分には発揮できていませんが)どうしてうまくいったのか、いかなかったのかと振り返る時に感覚だけではなく理論的に説明する能力が身につけていると思います。
地文M2	臨床心理実習	現場でどのようなことを起こっていて、何が課題なのかを、実際目で見たり、現場の専門家に話を聞くことができる点と、それを講義のなかで皆で話し合う機会もある点。
地文M2	日本語文化特殊研究Ⅱ	修士論文を完成させるためのきめ細かな指導。

③(1)今後あなたが研究をすすめるにあたって、何らかの改善をした方が良いと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	1	11%
B	ない	7	78%
C	科目の履修はしていない	0	0%
	無回答	1	11%

③(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点の改善をした方が良いと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M2		基本的な研究をより具体的に学ぶ科目が必要。統計や哲学など、専攻科というより基礎的科目が設定して欲しいと思った。

「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

6. あなたの研究に関する現在の指導体制・環境についてお尋ねします。

①現在の指導体制・環境に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	7	78%
B	満足していない	1	11%
C	どちらでもない	0	0%
	無回答	1	11%

②満足できない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ) 回答なし

③指導体制、方法、環境に関して、入学前に担当教員によるオリエンテーションがあった方がよいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	あった方がよい	6	67%
B	なくてもよい	0	0%
C	どちらでもよい	3	33%

④その他、指導体制、方法、環境に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	図書館設備、蔵書が素晴らしいです。できることなら夏季休暇等以外も子ども(中学生以下)のアクセスが可能になればありがたいです。
地文M2	ある一定の期間(修論提出前など)だけでも、院生室(PC室・控室)の開放時間を延長してほしい。
地文M2	入学前に得る情報が多いにこしたことはないと思います。

7. 大学院の施設・設備についてお尋ねいたします。

①大学院の研究や論文作成のための施設・設備に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	5	56%
B	満足していない	2	22%
C	どちらでもない	2	22%

②満足していない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

地文M1	大学院生や非常勤・嘱託の先生方が使用できるPC室の一部が私物化されていることが気になっています。場所が固定されている方が、使いやすいのはよくわかるのですが、皆で平等に使用できるようにしてほしいと思います。
地文M2	図書館の貸出冊数を20から25へお願いしたいです。 夏休みなどの一定の休みの期間の際は、13号館6階だけでも開館時間を23時から24時へお願いしたいです。 コピー機、プリンタの点検を定期的にお願ひしたいです。

③講義や課題や論文の作成にあたり、大学の設備(研究室及び図書館等)を利用していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	6	67%
B	たまに利用している	3	33%
C	全く利用していない	0	0%

④その他、大学院の施設・設備に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	パソコン室が使いにくい。パソコンが私物化されていて、使いたいところが使えないのは困る。
地文M1	13号館6階PCルームでは、たとえ研究に関することでも、できれば話(ディスカッション等)をすることを遠慮していただければ助かります。
地文M1	大学院自習室のフロア24時間利用できるようなるとありがたい。 第一駐車場が2階建てになると、混雑が解消できて良い。
地文M2	院生パソコン室で使用する用紙やプリンタインクなどの交換タイミングについてです。まず、用紙について、無くなってからの補充はいかがなものかと。(いつでも使用できるようA4用紙ならば、常に一箱は常備していただきたい。)続いて、プリンタインクについて、インクの交換表示がなされているにも関わらず、院生からの申請がなければそのままのはいかがなものかと。

「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

8. 教育支援者(TA・SA)制度についてお尋ねいたします。

①あなたは、現在、教育支援者(TA・SA)として、学部授業のサポートを行っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	行っています	5	56%
B	行っていません	2	22%
C	過去に経験があります	2	22%

②M2以降も、教育支援者(TA・SA)を続けたいと思いますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	続けたい	3	60%
B	続けたくない	1	20%
C	どちらでもない	1	20%

③上記②において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	自分自身の勉強にもなる為。
地文M1	研究や実習を行うことを考えると、時間がないと感じる。
地文M1	TAとして学生や先生と関わったり、講義を再度受けることが、自分自身の能力アップにつながっていると感じるからです。また、大学院生になると、バイトを行うと学業が疎かになってしまいますが、経済的な面を考えると、何も収入源がないのはとても不安です。私の場合は、自身の勉強の合間に出来るTAの仕事がその収入源としての頼りなので、M2以降も続けていけたらいいな、と思います。
地文M1	自らの基礎を見直すきっかけとなるからです。
地文M2	状況判断でしかないのです。

④教育支援者(TA)経験が無い方へ質問です。教育支援者(TA)の経験をしてみたいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	してみたい	1	50%
B	してみたくない	0	0%
C	どちらでもない	1	50%

⑤上記④において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	現況では時間配分(仕事&学業)の目安が立たないため。
地文M1	学部生のサポートをすることによって、自分自身も学習内容を深く理解できるようになるため。

9. 本学に付置している研究所についてお尋ねします。

①本学にある4研究所を知っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	知っている	7	78%
B	知らない	2	22%
C	興味がない	0	0%

②本学の研究所の施設を利用したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	0	0%
B	たまに利用している	0	0%
C	全く利用していない	9	100%

③本学の研究所が主催する「研究会」などのイベントに参加したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく参加している	0	0%
B	たまに参加している	2	22%
C	全く参加していない	7	78%

「2013年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

10. その他、ご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。(時間数、科目の種類など)

地文M2	院生が全員で受ける科目が一つぐらいあるといいですね。顔も知らない人も多いですから。
地文M2	学費、もう少しおさえていただくと助かります。(学部・院ともに)